

新聞コラム紹介

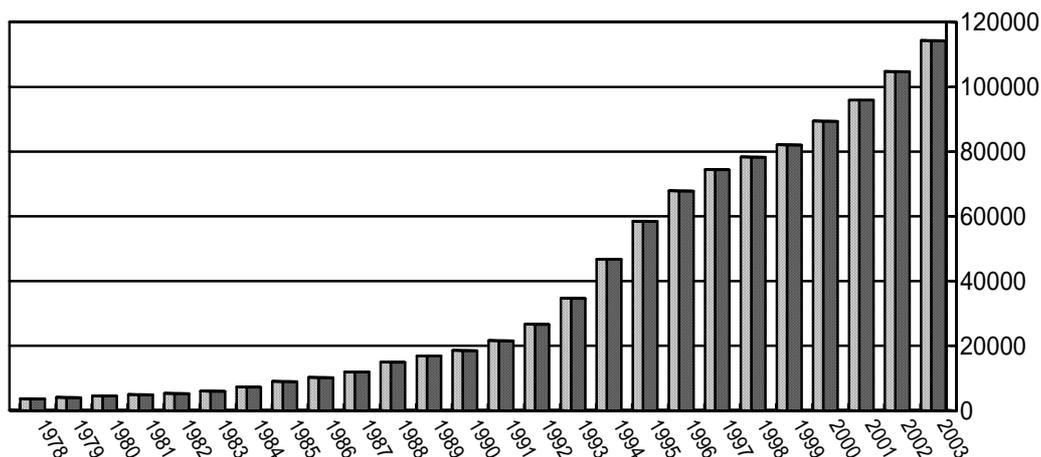
中国の石油需給動向について

産業研究ユニット 石油・ガスグループ 主任研究員 郭 四志

国際石油・エネルギー問題のキーファクターは、これまでとかく中東産油国、国際石油メジャーとされてきたが、今日、中国は経済の高度成長による(図表 1)石油需要の急増に伴い、石油消費量はアメリカに次ぐ世界第 2 位となっており、中国の石油需給構造の変化と動向がますます注目されている。

図表 1 中国 GDP の推移 (1978 ~ 2003 年)

(単位: 億元)



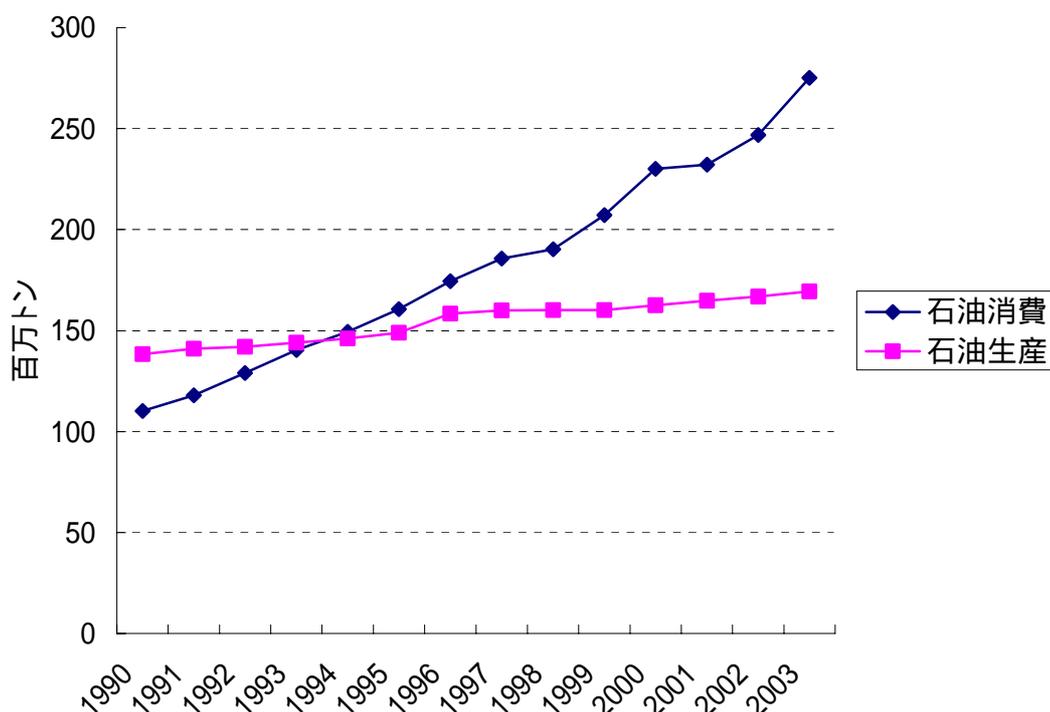
出所: 中国国家统计局『中国統計摘要』中国統計出版社各年より作成。

急増しつつある石油需要

中国の石油需要は国民所得増大に伴うモータリゼーションの進展やエネルギー消費機器の普及などにより、急速に増加している(図表 2)。2003 年における中国の石油消費量は、日本(2 億 4,870 万トン)を抜いて、アメリカ(9 億 1,430 万トン)に次いで、世界第 2 位の 2 億 7,520 万トンとなっている。中国石油消費の 1 次エネルギー消費に占める割合は、1990 年の 16.0%から、2003 年には 23.3%にまで上昇している。

中国における石油消費の急増の背景としては、主に以下のようなことが挙げられる。すなわち、経済成長に伴う産業構造の高度化によって石炭よりも利便性が高く、高品質なエネルギー源である石油へのシフトが続いたこと、モータリゼーションの急速な進展、1990年から2000年までの10年間に自動車全体の年平均増加率が14.6%にも達したこと(図表3)、可処分所得の増加によるエネルギー消費機器の普及と利用頻度の増大、などのファクターである。

図2 中国における石油消費量と生産量の推移



図表3 中国のモータリゼーションの現状

単位:万台

	自動車	農用車	二輪車	自動車換算
1990年	551	342	464	712
1995年	1,040	812	2,170	1,528
2000年	1,609	1,914	5,254	2,773
1990/2000 増加倍数	2.9	5.6	11.3	3.9
年平均伸び率(%)	11.3	18.8	27.5	14.6
世界保有計	72,153	18,880	74,040	-
中国シェア(%)	2.2	27.8	3.7	-

出所：日本エネルギー経済研究所資料より。

伸び悩んでいる石油生産と需給ギャップの拡大

一方、中国の石油生産量は、伸び悩んでいる。1990年代に入って以来、既存の東部の大慶、勝利、遼河の3大油田は老朽化し、生産量はほぼ横ばいないし減産と停滞している。1990年の3大油田の原油生産量は中国全体の74.2%を占めたが、2000年には58.3%に下がり、さらに2003年には51.7%にまで落ち込んでいる。中国現在の原油生産量は主に西部陸上油田と海上の油田の生産拡大が既存主力油田の減産を補い、近年1億7,000万トン台近くを維持しており、2003年に前年比1.4%微増の1億6930万トンとなっている。

しかしながら、国内原油の生産量は、図表2に示すように、需要の増大に追いつかず、需給ギャップは拡大している。そのギャップは、原油純輸入国に転じた1996年の1,590万トンから、2003年には1億トン以上に拡大している。このギャップの拡大は輸入を拡大することでカバーする構造となっている。

輸入拡大によるカバー

中国は、1990年代に入って以来、石油輸入が急速に増大しており、1993年に石油純輸入国、1996年原油純輸入国となった。2003年の石油輸入量は1億1,937万トン、そのうち原油9,112万トン、製品2,824万トン(図表4)で、対前年比それぞれ31.3%、38.8%と大幅に増加している。また、原油と製品の純輸入量は、8,299万トンと2,011万トンであり、対前年比それぞれ33.4%、53%増となっている。さらに2004年上半期の原油輸入量は、前年比39%増の6,102万トンに達しており、とくに2004年6月の原油輸入量は1,127万トンと月次で史上最高値を更新している。

図表 3 中国原油と石油製品の輸出入 (単位: 万トン)

年	輸出		輸入		輸出入バランス		
	原油	石油製品	原油	石油製品	原油	石油製品	純輸入計
1986	2,850	599	46	197	2,804	402	3,206
1987	2,723	519	0	205	2,723	314	3,037
1988	2,605	504	85	324	2,520	180	2,700
1989	2,434	504	326	554	2,108	50	2,058
1990	2,398	566	292	331	2,106	23.5	2,341
1991	2,260	516	597	466	1,663	50	1,713
1992	2,151	539	1,136	784	1,015	245	770
1993	1,943	456	1,565	1,754	378	1,298	920
1994	1,855	379	1,234	1,289	566	910	354

1995	1,885	414	1,709	1,449	176	1,026	850
1996	2,033	418	2,262	1,582	229	1,164	1,393
1997	1,983	526	3,547	2,380	1,564	1,854	3,418
1998	1,560	424	2,680	2,174	1,120	1,750	2,870
1999	717	645	3,661	2,082	2,944	1,437	4,381
2000	1,044	827	7,027	1,805	5,983	978	6,961
2001	755	924	6,026	2,145	5,271	1,221	6,492
2002	721	1,071	6,942	2,035	6,221	1,314	7,535
2003	813	1,385	9,112	2,824	8,299	2,011	10,310
2004 1-6 月	307	510	6,103	1,989	5,796	1,479	7,275

出所: 『中国統計年鑑』(各年版)、DOWJONES China Energy 等より作成。

今後の需給について

2004 年中国の GDP 成長率は 8.5 - 9% になり、2005 年も 8% 台の成長が続く見通しである。今後中国の石油需要は経済のソフトランディングへの調整の下で、需要量の増加スピードは多少減速する可能性はあるものの、需要量は減少することはない。2004 年の石油需要増加率は昨年(12%)と比べ 7% に減速し、需要量は 2.9 億トンとなると見込まれている。なお、各エネルギー機関は 2010 年までに中国の石油需要値は 3 億トン以上に増加すると予測している。

一方、石油の生産量は、2004 年の推定値は 1.7 億トン、2010 年に 1.8 億トンである。これにより、2004 年には需給ギャップは昨年の 1 億トンから、1.2 億トン程度まで拡大し、2010 年にはさらに 1.4 億トンにまで増大する。それを埋めるために、2004 年の原油輸入量は昨年の 9,112 万トンを超え、1 億 2,000 万トンに達する見込みで、さらに石油製品も含め、石油全体の輸入量は約 1.5 億トンに達するとみられ、また、2010 年には、石油全体の輸入量は 2 億トン近くに増えると予想されている。今後中国の石油需給の逼迫がますます厳しくなり、国際石油市場における中国の存在は従来以上に強いインパクトを与えるキーファクターとなると考えられる。

(本コラムは、平成 16 年 8 月 18 日(水)付けの「DERIVATIVES JAPAN」に掲載されたものである。)

お問い合わせ : Report@tky.ieej.or.jp

